

農業クラブの3大目標のひとつである「社会性」（コミュニケーション能力や積極性等）を身に付け、更に人間性を高めていくためにはどのようにしたらよいか。

クラブ員代表者会議 中国ブロック連盟 山口県立大津緑洋高等学校 日置校舎



生物生産科	2年	佐々木	友里
生物生産科	2年	三好	雪花
生物生産科	2年	長岡	愛貴
生物生産科	2年	藤田	真衣

1. 中国ブロック連盟について

中国ブロック連盟は、鳥取県（5校、648名）、島根県（5校、1,135名）、岡山県（8校、1,918名）、広島県（6校、1,556名）、山口県（6校、1,130名）の5県、クラブ員数6,387名で構成されています。今年度、全国大会が岡山県で開催されるにあたり、岡山県連を中心に中国ブロック連盟一丸となって準備を進めてきました。

2. 長門市と大津緑洋高等学校の紹介

（1）長門市について

本州の最西北端、山口県の西北部に位置する長門市は、東に萩市、南に下関市、美祢市に接し、北側には北長門海岸国定公園に指定される美しい日本海が広がっています。百選に選ばれる棚田や元乃隅稲荷神社など、自然の景観を活かした景勝地が多く、温泉も散在し、童謡詩人の金子みすゞや洋画家の香月泰男のふるさとでもあることから、多くの人が訪れています。また、農業と漁業がとても盛んな地域で、伝統農産物の栽培や販売、蒲鉾など海産物の製造にも力を入れています。このような、魅力ある観光資源を活用し、特色ある地域産業を推進することで、長門市は地方創生・地域活性化に取り組んでいます。

（2）大津緑洋高等学校について

大津緑洋高等学校は、普通科の大津校舎、農業科の日置校舎、水産科の水産校舎からなる3キャンパス制の高校です。普通科285名、生物生産科60名、生活科学科66名、海洋技術科76名、海洋科学科66名、水産専攻科16名の計569名が、特色ある学習活動を展開し、部活動や生徒会活動等、校舎間での交流を行っています。日置校舎



（写真1：日置校舎の風景）

では、農業の専門学科として地域の期待に応えるため、学習活動の充実を図るとともに、3キャンパス制の連携による生徒の自主的活動を尊重し、地域社会に貢献できる人材を育成するという教育目標のもと活動しています。日置校舎には、生物生産科と生活科学科が設置されており、現在126名の生徒が農業を通じて、地域と絆を深め、地域から多くの知恵や技術、文化を学び、日々成長しています。

(3) 地域連携の取り組み

本校では、2年次から作物・畜産・食品加工・野菜・草花・果樹の6つの専攻班に分かれ、専門的な学習活動を行います。各専攻班の特色を活かした地域連携を行い、地域とのつながりを深めることで、特色ある施設の利用や魅力ある人材からの協力など、学習の深化を図ることができます。また、プロジェクト学習では、地域密着型の研究活動を進めやすくなります。昨年度は、年間を通じて計115回の地域連携活動を行いました。主な事例を専攻班別に紹介します。

作物班では、長門市役所の要請を受け、長門市後畑地区で行われている自然栽培米の田植え式に参加し、昔ながらの手植えを行っています。稲刈り式でも、地域の方々と稲刈りを行い、はぜかけをします。また、地域の保育園児を対象とした、サツマイモの苗植え・芋掘り体験では、生徒が園児40人の先生になれるよう、日々の学習に熱心に取り組み、わかりやすく丁寧な説明で園児に接しています。その他、地域のお祭りやイベントなどでポン菓子を製造・販売し、たくさんの人との交流を行っています。

畜産班では、地域の畜産農家と交流会を開催し、地域の課題解決に向けたプロジェクト学習の成果を発信しています。また、山口県初の地鶏である「長州黒かしわ」を飼育し、生産物を地域のイベントで販売するなど、地元養鶏企業協力のもと、販路拡大に取り組んでいます。その他、畜審査競技の練習の一環として、農家を訪問して牛の見方について指導を受けたり、和牛共進会へ牛を出品したりするなど、「共育ちの畜産業」を目標に、日々の学習活動に取り組んでいます。

食品加工班では、直売所「農高夢市場」の運営と加工品の製造を行っています。直売所開店日には、各専攻班から持ち寄せられた農産物の陳列と販売業務にあたり、服装や言葉遣



(写真2：自然栽培米田植え式)



(写真3：家畜審査競技の練習会)



(写真4：本校直売所)

いなどに気をつけ、お客様から、より親しまれる直売所を目指しています。直売所は年間 25 回ほど開かれます。また、米の消費拡大を目指した米粉のパン作り体験教室や食育教室を開催しています。地域の子ども会・小学校の PTA 活動・高齢者学級などを対象としたこれらの活動はとて好評で、恒例行事として参加する方もいるほどです。

野菜班では、4月上旬に学校の一部を開放し、生産した夏野菜の苗約6万ポットの大規模な販売を実施しています。2日間で1,000名を超える来客があり、専攻生が品種や育成方法の説明し、接客を行っています。また、地域の部会と連携し、長門市の伝統野菜「白オクラ」の純系統種の栽培研究活動を行っています。企業と連携し、販売促進のためのイベントにも参加します。



(写真5：野菜苗販売)

果樹班では、5月から10月までの期間、地域の小学生を対象に、果樹栽培体験教室を開催しています。ブドウやナシといった果樹の栽培を段階ごとに体験してもらい、小学生が農業に興味を持てるような内容にしています。また、長門ゆずきちの収穫体験ツアーも開催しています。地域農家からほ場を、自治体から施設を借り、収穫したゆずきちを調理し、食べてもらうことで、普及につなげています。その他、地域廃棄資源であるウニ殻を肥料として活用するプロジェクト研究にも取り組んでいます。



(写真6：ゆずきちツアー)

草花班では、「桜街道 in 俵山」と題して、青年会議所や地域住民と協力し、長門市俵山にシバザクラを植栽し、桜街道をつくるプロジェクト活動を行っています。斜面に植えたシバザクラを活着させるために、天候や鳥獣被害に悩まされながらも、着実に範囲を拡大させています。また、通学路にある花壇に季節の花々を定植し、地域の方々にとっても喜ばれています。毎日の通学時に複数の目でチェックできるので、病害虫の発生やかん水不足のリスクも少なくなります。その他、花の栽培講座を行い、地域にたくさんの花を提供できるよう活動しています。



(写真7：シバザクラの定植)

これらの専攻班活動以外にも、学校設定科



(写真8：園児と芋ほり体験)

目「地域農業」では、特色ある農家や企業への訪問を行い、就農者との交流を図っています。「生物活用」や「グリーンライフ」では、地域の小学生を対象に、野菜の栽培体験やジャムなどの加工体験を行っています。また、家庭科では、地域の老人ホームへの訪問や病院での看護体験を行うなど、授業や学校行事、地域イベントなど多くの交流の機会があります。

3. 分科会テーマ

(1) 「社会性」(コミュニケーション能力や積極性等)を身に付けるためには

本校では、先述の通り、様々な地域連携を行ってきました。この積み重ねにより、地域との絆が深まり、地域から期待されるようになり、私たちの「自信」や「やる気」につながりました。初めは、地域の方と接することが苦手な1年生も、地域連携を繰り返すうちに、次第に地域の方とコミュニケーションが取れるようになります。2年生は、先輩から見習い、後輩に教えるという橋渡しの役割を担うことで、コミュニケーション能力と合わせて「指導性」を身に付けます。3年生は、連携先の選択から目的、日程、役割、準備物など、地域連携の企画から運営までを行い、積極性や主体性、公共性を身に付けます。身近な先輩の姿を見て、後輩が学ぶことはたくさんあるので、先輩は後輩のために経験に基づいた知識を与え、後輩は学び取る姿勢と次は自分たちが担うという責任感をしっかりとをもって行動することが、「社会性」を身に付けるうえで大事なことだと思います。

(2) 人間性を高めていくためにはどのようにしたらよいか。

人間性とは、一般的に「知性」・「感情」・「意志力」のことだと言われています。これをもとに考えると、「知性」を高めるためには、お手本となる人を見つけたり、本を読んだりして、進んで学習することが必要だと思います。「感情」を豊かにするには、ネガティブな発想をやめて、前向きに素直に物事を受け止めることができるようになることだと思います。「意志力」を強くするには、自分に自信を持ち、それに見合った努力をすることが大事だと思います。また「知性」・「感情」・「意志力」の3つをバランスよく身に付けることも人間性を高めるうえで、大事なことだと考えています。

4. まとめ

社会性を身に付け、人間性を高めることは、将来、社会に出て行くうえで必要となります。農業クラブ員として、このテーマに取り組めたことは、自分自身を見直すとても良い機会となりました。また、農業クラブ活動の中には、たくさんの人と出会い、交流を通して成長できる場面がたくさんあることに、改めて気付かされました。これからも地域の期待に応えられるよう、農業

に関する幅広い知識・技術を身に付け、多角的な視野を持ち、「知性」・「感情」・「意志力」の調和のとれた人間になれるよう、日々研鑽に努めていきたいと思っています。

社会性を身に付け、人間性を高める

地域の期待に応えるために！！

【スキルアップを図る】

知性 農業の専門的知識・技術の向上

感情 素直な気持ちで他者と向き合う姿勢

意志力 目標達成のための努力・諦めない心

日々研鑽に努める！